

「食の安全」を追い求め そのための「備え」を提案

株式会社ホワイトマックス

<http://www.whitemax.co.jp/>

大阪
21



滋賀工場

Company Profile

株式会社ホワイトマックス

住 所 / 〒573-0007
枚方市堂山1-1-25
設 立 / 昭和58年6月
資本金 / 2,500万円
従業員 / 38名
T E L / 072-848-3678
F A X / 072-848-3677

■主な事業内容

ポリエチレン手袋の製造・販売、安全衛生製品の企画・開発・販売、エンバランス加工素材製品の企画・販売

■主な取引先

食品会社、医療用品会社、印刷会社、電気機器会社、半導体製造会社等



当社のセールスポイント

安全衛生と環境の
共生を目指し、
社会に貢献します。

代表取締役社長
増本 剛さん



当社のポリ手袋は、食品工場などの安全衛生基準を満たす100,000レベルのバイオクリーンルームで生産しています。独自の加工技術であるエンバランス加工については、人と地球環境に優しい製品を開発し、責任をもって販売。今後も、社員一丸となって安全衛生と環境の共生を目指し、社会に貢献する企業であり続けたいと考えています。



ホワイトマックス取扱商品の一部

商社とメーカーの両面から 食の安全をサポート

昭和58年の設立当時、食品会社向けの白衣を手がけていたことが名前の由来となったホワイトマックス。取引先との信頼関係が深まるにつれ、ユニフォームだけでなく帽子やマスク、紙タオルなどさまざまな衛生用品を扱う商社的な役割も担うようになっていった。

その一方で、町中にはコンビニエンスストアが徐々に増え、消費者ニーズは外食から中食へとゆるやかにシフト。調理から販売までの時間が長くなり、環境衛生面からポリエチレン製手袋の需要が高まると見込んだ同社は、「ポリマックス」という自社ブランドを立ち上げた。そして、事業として軌道に乗った時点で滋賀工場をつくり、ポリ手袋に特化したメーカーとしての足場を固める。

その商品特長は、薄さと強さを併せ持ち、海外製品にはないフィット感をもたらす優れた加工技術だ。現在、同社滋賀工場では月平均約200

万枚のポリ手袋を供給し、国産品においては約4分の1の全国シェアを誇っている。

プラスチックの価値を 高める加工技術を開発

安全衛生上、一度使ったポリ手袋は廃棄されるのが常だ。同社は、環境との共生の道を探る中で、12年前から簡単に捨てられない価値の高いプラスチックを求めて研究に着手。試行錯誤の結果、水熱化学反応を応用し、プラスチックに加工を行う「エンバランス加工」を開発した。そして、独自の加工技術として日本とアメリカの特許を取得し、食品用保存袋や水タンク、衣類や寝具など約30品目を次々に商品化。食品の鮮度保持効果による生ゴミ減量にも貢献し、健康維持のサポートなど幅広い用途でも活用されている。

「関西には、素晴らしいものづくり企業が多く、当社は商品ごとにメーカーさんとアライアンスを組んでオリジナル性の高いものを企画・開発しま

す。協力先との関係を密にしてアイデアを持ち寄りながら大手ブランドに負けない商品づくりを目指しています」と増本社長。たとえば、平成20年度は「インフルエンザ看護1dayキット」という多品種ワンパック型の商品を発売。メディアにも取り上げられるなど大きな反響を呼んだ。

「食の安全グッズを備える」ことに始まった同社の事業分野は、今や医療・介護、弱電・半導体メーカーなどに拡大。これからも幅広いニーズへの柔軟な対応力で、新たな商品とサービスの拡充を目指す。



エンバランス関連商品の一部